

令和 7 年 12 月議会

総務財政委員会報告補足資料

1. 福岡県地震に関する防災アセスメント調査概要

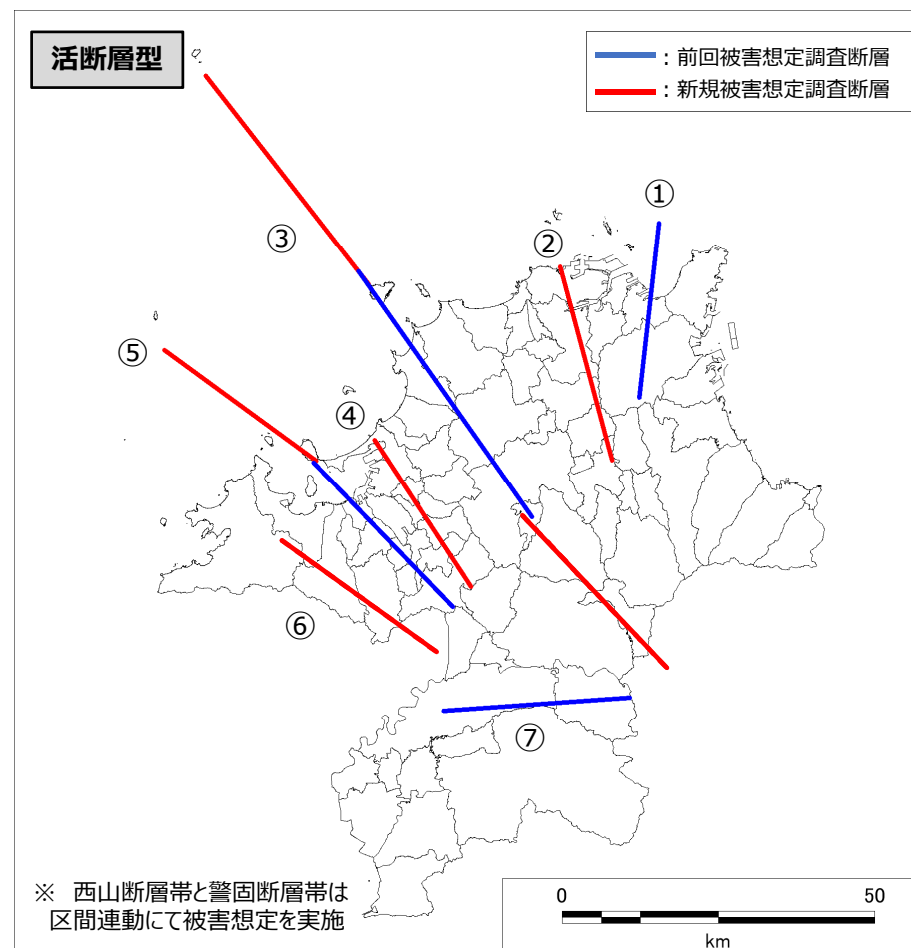
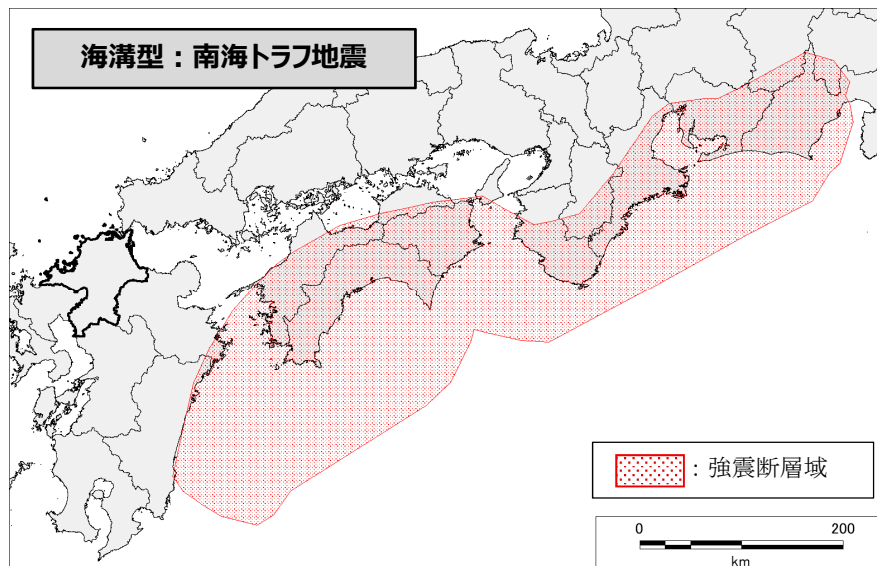
市 民 局

地震に関する防災アセスメント調査概要

- ✓ 前回調査（平成23年度）から約10年間の社会情勢の変化や、地震に関する調査研究の蓄積等を踏まえ、本県の地震防災対策の基礎資料とするため、地震に関する最大の被害を想定した調査を実施

【調査対象】

- | | |
|----------|---------------|
| ① 小倉東断層 | ⑤ 警固断層帯 |
| ② 福智山断層帯 | ⑥ 日向峠－小笠木峠断層帯 |
| ③ 西山断層帯 | ⑦ 水縄断層帯 |
| ④ 宇美断層 | ⑧ 南海トラフ地震 |



最大震度及び主な被害想定の結果（地震別）

- ✓ 令和7年3月に内閣府が公表した南海トラフ地震の被害想定手法や、既存の調査データ等を基に計算した結果、以下のとおり予測された。
- ✓ 地震規模及び30年以内の地震発生確率は、地震調査研究推進本部の長期評価結果である。

想定地震	地震規模(M)	地震発生確率	最大震度	最大液状化危険度	全壊全焼(棟)	半壊(棟)	死者数(人)	負傷者(人)	避難者(人)	災害関連死者数(人)
小倉東	7.1	不明	7	極めて高い	11,000	36,000	500	4,900	79,000	200
福智山	7.2	ほぼ0-3%	7	極めて高い	11,000	40,000	400	4,800	79,000	200
西山	7.9-8.2	不明	7	極めて高い	41,000	121,000	1,800	17,000	293,000	700
宇美	7.1	ほぼ0%	7	極めて高い	35,000	68,000	1,900	11,000	343,000	800
警固	7.7	0.3-6%	7	極めて高い	36,000	85,000	1,800	12,000	319,000	800
日向峠－小笠木峠	7.2	不明	7	極めて高い	19,000	59,000	900	6,500	197,000	500
水縄	7.2	ほぼ0%	7	極めて高い	11,000	44,000	300	4,300	79,000	200
南海トラフ	8-9クラス	60-90%	5強	高い	700	3,200	わずか	わずか	3,100	わずか

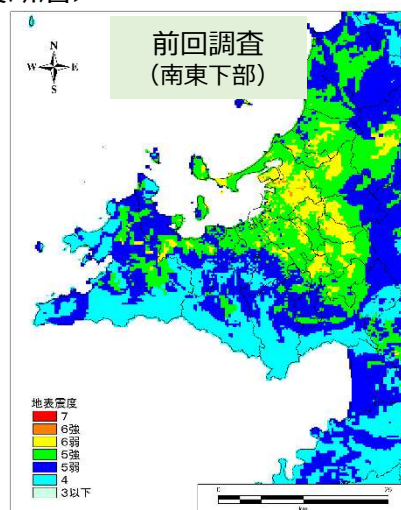
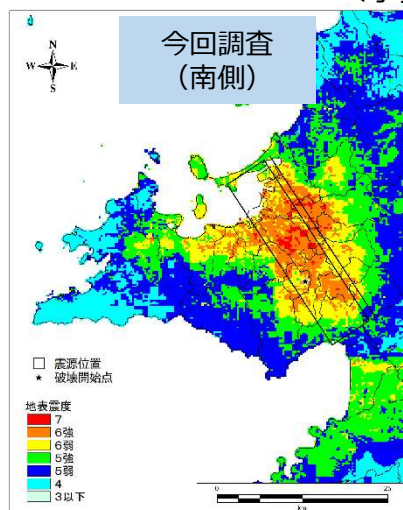
※ 警固断層帯の地震発生確率は、南東部を示している。北西部の地震発生確率は不明。
 ※ 四捨五入することにより整数化している。
 ※ 冬18時・強風のケースを示している。なお、避難者数は、冬18時・強風・発災当日のケースを示している。

被害想定結果【福岡市】

- ✓ 震度分布図は、今回調査において最大震度のメッシュ数が一番多いケースを示している。
- ✓ 今回調査の結果は、冬18時・強風のケースを示している。なお、避難者数は、冬18時・強風・発災当日のケースを示している。
- ✓ 前回調査の結果は、各市町村における最大の被害想定数を示している。

想定地震	今回調査						前回調査					
	最大震度	全壊全焼 (棟)	半壊 (棟)	死者数 (人)	負傷者 (人)	避難者 (人)	最大震度	全壊全焼 (棟)	半壊 (棟)	死者数 (人)	負傷者 (人)	避難者 (人)
南海トラフ地震	5弱	-	-	-	-	-						
小倉東断層	5強	30	200	-	-	1,100	5強	0	-	0	0	0
福智山断層帯	6弱	200	1,500	-	40	8,200	5強					
西山断層帯	7	6,900	19,000	300	2,400	120,000	6強	800	1,500	100	1,100	4,300
宇美断層	7	15,000	26,000	900	4,700	232,000	6強					
警固断層帯	7	14,000	27,000	900	4,600	201,000	6強	4,500	3,500	500	3,200	25,000
日向峠－小笠木峠断層帯	7	8,600	19,000	600	2,500	131,000						
水縄断層帯	6弱	500	3,800	-	100	22,000	6弱	100	500	10	400	800

＜宇美断層＞



差分（＝今回調査－前回調査）

想定地震	差分				
	全壊全焼 (棟)	半壊 (棟)	死者数 (人)	負傷者 (人)	避難者 (人)
小倉東断層	30	200	-	-	1,100
西山断層帯	6,100	17,500	200	1,300	115,700
警固断層帯	9,500	23,500	400	1,400	176,000
水縄断層帯	400	3,300	-10	-300	21,200

【宇美断層】

- ・ 主に揺れによる被害が大きい

【西山断層帯・警固断層帯】

- ・ 揺れの大きいエリアが拡大したため、被害全体が増加

【水縄断層帯】

- ・ 液状化沈下量の大きいエリアがあるため、建物被害が増加し、人的被害が発生しない液状化による建物被害が多いことや、建物の滞留人口比率が低いことから人的被害は減少

